

2024年11月26日

11月21日の市長記者会見「一部現地保存」方針転換に対する声明

門司・北九州の未来を考える会

代表 平出隆

1

11月20日、北九州市が当会の会見の要望を受け入れ、懇談の機会を与えてくださったことに、まず深く感謝の念を表明します。

一方で、その翌日21日に市長の記者会見が突然に行われたのですが、同じ時間帯に教育文化委員会が開催されていたと、後に聞かされました。本来、市長方針発表は委員会審議の後となるはずですが、当会との懇談はその前日にあったばかりで、突然の市長発表に私たちは戸惑いました。文化財保護法に則った正常な民主的プロセスで、市長のご英断がより良い実現に向かって進むことを、私たちは強く願っています。

11月21日の市長会見での以下の内容について申し上げます。

- ・一部現地保存への方針転換の決定
- ・複合公共施設の設計変更はしない

11月25日に発出された日本イコモスの声明は、市長の「一部現地保存案」には、「門司駅遺跡の本質的な価値を伝える部分」が含まれていないと指摘しています。したがって、上記2項の矛盾を解消させ、世界遺産認定につなぐためにも、速やかに計画変更に踏み切り、「本質的な価値を伝える部分」をも含めた現地保存を、心よりお願い申し上げます。

複合公共施設の計画については、高潮浸水のハザード地域であるのにその1階に図書館があること、大渋滞が想定される駐車場配置、災害時避難構造設計の欠如など3点の危惧に対して、市政からのご回答が求められています。また、入札不調の事実から推察できるように、122億円以上もの大金が費やされ、さらに数年おきの

メンテナンス費も膨大になることは明白です。

一方、私たちの会はすでに、街の潜在力を活かした複数の代案を公表しました。これは、住民と環境の視点に立ち、現在の予算よりはるかに安価で、かつ真に「安心安全」な具体案と言えますので、ぜひともご検証いただき、複合公共施設の危険性を回避していただきたくお願い申し上げます。

4

また、遺跡が世界遺産認定となれば、大規模な資金獲得が予想され、門司港にふさわしい国際的なプロジェクトも可能になり、私たちもすでに様々に構想しているところです。

このように私たちもまた、市長の構想である「稼げるまち」構想に、できる限り寄り添おうとする者であります。従いまして、世界遺産の認定につながる「価値のある部分」が現地保存されることを、あらためてここに切望する次第です。

5

世界の文化国家の基準では、貴重な文化財が発掘された場合、進めていた既定の

計画をいったん止めてその正確な価値づけを行い、価値ありとすれば知恵を集めて、既存環境との穏やかな併存や斬新な融合を工夫するのが一般です。今回の市長のご決断は限りなくそこに近づいていると拝察されます。

これまでの門司港レトロ事業をさらに継続・発展させるために、官民商学一体で門司港が世界遺産の街になるように共に努力して参りましょう。

門司が、北九州が、自身の起源と未来をつかみなおすこの絶好の機会を活かし切るように願い、当会はこの夢の実現のために、市政へのできる限りの協力を惜しみません。

要約

- 1: 市長の「一部現地保存」の方針転換を一定評価する。
一方で、文化財保護法に則った民主的プロセスを進めてほしい。
- 2: 「一部現地保存」の中に、専門家のいう「本質的な価値のある部分」を含めて、遺跡が世界遺産認定につながるようにしてほしい。
- 3: より安心安全で安価な、住民の視点による複数の代替提案を含めて、複合公共施設の危険性の回避と検証（ハザードマップ上の水害対策・図書館問題・交通渋滞問題など）をお願いしたい。
- 4: 遺跡が世界遺産となれば、大規模な資金獲得も可能な様々な構想が生まれる。門司港にふさわしい国際的プロジェクトで市長の「稼げるまち」構想に協力していきたい。
- 5: これまでの門司港レトロ事業を継続・発展させ、官民商学一体で世界遺産のまちづくりに向けて、共に努力していきたい。